

科目名	日 本 史 B	学 年	2 年	コース	全	単位数	2	担当者	
-----	---------	-----	-----	-----	---	-----	---	-----	--

1 目 標

我が国の歴史の展開を，世界史的視野に立って総合的に考察させ，我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって，歴史的思考力を培い，国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

2 到達目標

政治・経済・文化・社会など，日本史の縦の流れを理解する。

各時代・時期の政治・経済・文化・社会などの，横の関連を理解する。

日本史の展開を，国際環境と関連させて理解する。

3 成績評価の方法

定期考査，提出物，授業への出席状況や授業態度を総合的に評価する。

4 学習者へのメッセージ

中学校社会科の歴史的分野の内容をさらに発展させ，歴史的な見方や考え方を身につけることを目的とし，2年間で学習する。2学年では原始・古代から近世までの歴史を学習する。

歴史は暗記物というイメージがある。確かに覚えることが多い。しかし，暗記だけに終始すると，歴史は無味乾燥なものになってしまう。事象の本質を事象の形成過程の中に探っていこうとするのが歴史学だ。歴史の流れ，すなわち因果関係を無視してばらばらに覚えようとしたら苦しいだけだ。センター試験には，覚えているだけでは解けない問題も多く出題される。歴史上の出来事の時代的な背景を常に考えるように心がけよう。また，歴史小説や時代劇が多くの人に好まれているように，人間の営みとしての歴史には，興味深い人物や出来事がたくさんある。副教材の図表にはおもしろい情報がたくさん載っている。ぜひ活用してほしい。

書いて覚えよう。歴史用語を正確に漢字で書ける人は，ある程度日本史の知識が定着している。マーク形式の問題だから，漢字など覚える必要がないと考えるのは大間違い。ノートを作ったり年表を作ったり，自分の手を動かして覚えよう。

様々な資料に基づいて歴史は叙述されている。博物館などの施設や地域の文化遺産について関心を高め，文化財の保護について関心を持とう。

5 使用教材（予定）

教科書「詳説 日本史」(山川出版)

副教材「新詳 日本史図説」(浜島書店) 「日本史B用語集」(山川出版)

6 自己評価

1年間を振り返って到達目標を達成できたか，自己評価をして，今後の課題を明らかにしよう。

到達目標 [] [] []

課 題

A：十分，達成できた。 B：だいたい達成できた。 C：努力が不足した。

7 年間授業計画

月	単元(章,節など)	重点目標
4 、 5 、	歴史の考察 文化のはじまり 農耕文化の成立 古墳と大和政権 推古朝と飛鳥文化	歴史の基本的な考察方法の理解 旧石器,縄文,弥生時代の社会や文化の理解 大和朝廷による国内統一過程の理解 中央集権的な政治と東アジア世界との関係の理解
1 学 期 中 間 考 査		
6 、 7	律令国家の成立 平城京の時代 天平文化 平安初期の政治と文化 摂関政治 国風文化	律令体制下の社会制度と政治の動向の理解 律令国家の展開と天平文化の国際性の理解 律令体制の変質と東アジア文化の影響の理解 摂関政治の推移と国風文化の特質の理解
1 学 期 期 末 考 査		
9 、 10 、	荘園と武士 院政と平氏の台頭 鎌倉幕府の成立 執権政治 元寇と幕府の衰退 鎌倉文化	荘園の拡大,武士の台頭等が及ぼした影響の理解 武家政権の形成過程と土地支配の変化の理解 武家政権が全国的な政権に成長した背景の理解 東アジア世界との関わりと文化の新気運の理解
2 学 期 中 間 考 査		
11 、 12	室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化 戦国大名の台頭	武家政権の支配の進展と東アジアとの交流の理解 諸産業の発達,庶民の活動が及ぼした影響の理解 今日の生活文化の基礎ができあがったことの理解 戦国大名の富国強兵策と経済発展の理解
2 学 期 期 末 考 査		
1 、 3	織豊政権 幕藩体制の成立 幕政の安定 経済の発展 元禄文化 幕政の改革 幕府の衰退 化政文化	統一政策の意義とヨーロッパ文化との接触の理解 身分制度,鎖国政策など幕藩体制の特質の理解 諸産業の発達と町人文化形成の理解 幕藩体制動揺の内的・外的要因の理解 文化の時代的背景と近代化の基盤の形成の理解
学 年 末 考 査		